

発行と同時にホームページにも掲載しています。
そちらだとカラーでご覧いただけます。

学校だより



高社の里

思いを「聴こう」「語ろう」「創ろう」

平成30年10月31日

中野市立高社中学校

10.23 校長講話より ～後期人権月間のスタートにあたり～

館林校長先生は、10月22日(月)から始まった後期人権学習月間にあたり、月間目標を生徒と共に確認されました。それは「…一人ひとりが幸せに生きることができる社会の実現に向けて努力できるようになる」というものです。続いて下の作文を紹介されました。

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会主催

第36回(平成28年度)全国中学生人権作文コンテスト入賞作文 全国人権擁護委員連合会会長賞

パン一つ買えない日本

香川県 高松市立太田中学校 2年 藤村 勇斗

僕たちは小さい時から同じ制服を着て学校に行き、同じ給食を食べ、同じ行動をする。同じことをすることで安心でき、なかま意識ができる。そして皆、同じことが当たり前だと思っている。それは見方を変えようと一つでも違えば、つまみ出される世界でもある。こんな世界って本当に幸せなのだろうか、そんな事を感じた去年の夏の出来事がある。

僕は、母の入院のお見舞にきていた。その日は早くから病院にきていて、一階の焼きたてパンを買うことを楽しみにしていた。母は首の傷口から菌が入り、左顔半分が倍以上に赤くはれあがっていた。毛穴から膿も出て目もつぶれていたが、だいぶ元気になり、僕はホッとして喜んでいて。僕が昼前に、母と一緒にエレベーターで一階のパン屋へ向かい、楽しい気持ちと、母においしいパンを食べて元気になってもらいたいという思いで、店へ入ろうとした時、「ヤベー見ろよ、あれキモッ」「あの顔すくくない?」「やばいもの見た」「気の毒」と、ヒソヒソと、やりのような視線と声が聞こえてきた。あたりを見ると、振り返って見る者、わざわざ店の前に戻ってくる者、パン屋の周りは、異様な雰囲気になった。僕はトレイを取るのをやめ、代わりに母の手を取り、すぐに店を出て、人気がない電話ボックスの陰に隠れた。とっさに、どうしてそんな行動をとったのか自分でもよく分からないが母を見せたくないのか、自分が恥ずかしかったのか、ともかくそこに立っていられたのは事実だった。僕は、肩でハアーハアーと息を切らして興奮がおさまらなかった。今まで体験したことのないような圧力を感じた。身体の暴力以外にこんな暴力があるのだと感じた。そして集団の恐ろしさも感じた。母は、僕の背中をさすりながら、「ごめんよ、ごめんよ。」と、言い続けた。つぶれた目からこぼれる涙を見て、僕は我に返った。どうして母が謝るのか、どうして僕たちがここに隠れてなければいけないのか、ただ不思議を通り越して怒りに変わっていた。母は、お金を渡すから一人で行っておいでと言った。しかし、僕は、「何も悪い事はしていない、堂々とすればいいんだ。それに、一緒に行かないと意味がないんだ。」と訴えた。このままでは、得体の知れない何かに負けてしまいそうで、逃げてしまうと一生後悔しそうな気がした。母の手をまたつかみ、店へ行った。案の定、やっぱりみんな変わった者を見るような視線が突き刺さった。震える手でトレイをしっかりとつかみ、「母さん、どのパンが一番おいしそうかなー。」と大声で言いながら店の中を回った。その間、どれだけの言葉や視線の攻撃を受け続けたことか。僕は、何も感じない心をわざとつくり、それを保ち続けるしかなかった。病室に戻り、母は隣の人に僕の行動をうれしそうに話していた。ほめてくれるのはうれしいけど、自慢できる行動でもなかったと思った。

僕は、窓の外を見ながらパンを食べた。この雲一つない青い空の下、いったいどれだけの人が自由に外に出ているんだろう。美しい物を見て美しいと感じ、甘いおいをかいで笑顔があふれ、心地よい音楽を聴いて、心はずむ。本当に全ての人ができるのだろうか。誰もが自由に楽しむ権利はあるはずなのに、僕達は自分と違う者を除外したがる弱い気持ちがある。同質の者は受け入れるが、何か変わっていると、変わり者、別物とみなし、なかまに入れたがらない。歴史的にも特に江戸時代には厳しい身分制度や差別があった。しかし、もう時代は変わったのだ。僕は、一人一人がもう少し心に一センチでもいい、異なるものを受け入れるすき間をつくってほしい。(裏面へ続く)



「作文に登場するそれぞれの立場に立って、自分だったらどんな気持ちだったのか、どんな行動をとるか、考えてほしいと思います。」

(表面から続く)容姿、障がい、人種や宗教等、異なるものを受け入れて認める心を少し広げれば解決できることなんだ。全ての人間は同じように幸せに生きる権利がある。そして、それを奪う権利は誰にもない。みんな平等で、自由でなくてはならない。自分の認めた者だけが幸せというのは、本当の幸せじゃないんだ。異文化、異民族等異質のものを認め受け入れる広い心が一人一人にあれば、この青い空の下もっと多くの笑顔と笑い声が聞こえてくるはずだ。そんなことを考えながら食べたチョコクリームたっぷりのパンが少しにがく感じられた初夏の一日だった。

10月のスナップ

本校ではキャリア教育として、1年生が「ジョブセミナー」、2年生が「職場体験」、3年生は「進路講話」を実施しました。「ジョブセミナー」の講師選定や「職場体験」の事業所開拓および池田市長さんの講話につきましては、中野市教育委員会に全面的に支援をいただきました。今回、講師の依頼や職場体験の依頼を受け入れてくださった市内各事業所の関係者のみなさまに、この場をお借りしてお礼を申し上げますとともに、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。



3年「進路講話」10/18

飯山高校、中野立志館高校、須坂創成高校、須坂高校の4校から講師を招き、3年生として進路に対する意識を高めました。



2年「池田市長さんの講話」10/22

講話の最後に、中学生の質問に答えられました。質問した2年生たちも立派でした。職場体験を振り返って働くことの意味づけが深まりました。



1年「ジョブセミナー」10/18

講師として来ていただいた事業所の皆様。左から、藤沢勉様(パティシエ)、原 猛様(豆腐店)、山戸啓太様(果樹栽培)、高野千恵様(看護師)、下田彩乃様(介護福祉士)、小島裕行様(フィットネスインストラクター)

11月の主な予定

- 11月 1日 (木) 授業参観日・人権教育講演会・PTA常任委員会
- 2日 (金) 漢字検定
- 3日 (土) 【文化の日】 県中駅伝 中高飯水新人 (女子バレーボール)
- 4日 (土) 中高飯水新人 (女子バレーボール)
- 6日 (火) 見合う授業 (第3回自主公開授業研究会)
- 8日 (木) 血液検査 (対象者のみ)
- 10・11日 (土・日) 北信新人大会 (男女バスケットボール)
- 14日 (水) テスト前部活動なし (~20日朝)
- 15日 (木) 長野県視覚・放送・情報教育研究会<数学科授業校>
- 17・18日 (土・日) 北信新人大会 (女子バレーボール)
- 19日 (月) 二学期期末テスト①、3年第6回総合テスト①
- 20日 (火) 二学期期末テスト②、3年第6回総合テスト②
- 22日 (木) 生徒会立会演説会、全校投票
- 23・24日 (金・土) 北信新人大会 (卓球) 【23日: 勤労感謝の日】
- 27日 (火) 北部人権教育研究会 (3時間 清掃なし 12:55 下校)
- 28日 (水) 歯科集会

生徒会各部の活動も大詰め



読書旬間の締めくくり。部員による発表【10/23 読書集会(図書部)】



学年学級を越え協力して楽しく給食【10/23,24LINKランチ(給食部)】

(文責: 教頭)